国指定重要無形民俗文化財
嵯峨大念佛狂言
保存会結成 50th 1975▸2025

S A G A　D A I N E N B U T S U　K Y O G E N

嵯峨大念佛狂言に伝わる古面

京の大念仏狂言を彩る面

第2弾

能面系　男面　「蝉丸」

嵯峨大念佛狂言独自の演目『釈迦如来』の
釈迦役のみで使われる面。

11月22日(土) 13:00～16:00
12:30開場

入場無料・定員400名

京都府立京都学・歴彩館 大ホール
〒606-0823　京都市左京区下鴨半木町1-29

講　演

「仮面劇としての大念仏狂言の魅力」
八木　透（佛教大学教授・京都民俗学会会長）

実　演

嵯峨大念佛狂言「釈迦如来」

主催：嵯峨大念佛狂言保存会　共催：京都府立京都学・歴彩館
後援：公益財団法人京都市文化観光資源保護財団
協力：京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

本事業は、令和7年度 文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)の補助を受けて実施しています。

お問合せは
嵯峨大念佛狂言保存会
〒616-8447 京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町46
清涼寺（嵯峨釈迦堂）
080-1414-4864
保存会 事務局長 加納まで
www.sagakyogen.info
vtmi19509@leto.eonet.ne.jp

京の大念仏狂言を彩る面 第2弾

当日プログラム

講　演

仮面劇としての大念仏狂言の魅力

八木　透（佛教大学教授・京都民俗学会会長）
Yagi Toru

1955年（昭和30）年 京都市生まれ。祇園祭鉾町で江戸時代から続く白生地問屋の家筋に生まれる。生粋の京都人。
同志社大学文学部卒業、佛教大学大学院博士後期課程修了。毎年、祇園祭山鉾巡行では解説役としてテレビ出演している。世界鬼学会会長、京都民俗学会会長、公益財団法人祇園祭綾傘鉾保存会理事。京都府および京都市文化財保護審議委員、日本山岳会京都・滋賀支部監事。ほか多数歴任。

記録映像上映

京の伝統芸能を担う人々
嵯峨大念佛狂言保存会へのインタビュー

製作：嵯峨大念佛狂言保存会　2024年撮影　約30分

実　演

嵯峨大念佛狂言『釈迦如来（しゃかにょらい）』

見どころ

演目『釈迦如来』は、ヤワラカモンに分類される嵯峨大念佛狂言独自の演目で、他の狂言では見られません。清涼寺の本尊である釈迦を庶民の目線に近づけ面白可笑しく描くストーリーは、嵯峨地域のおおらかな気質を感じさせます。無言劇ならではの所作や動きを大いに笑っていただければと思います。

おはなし

坊主と寺侍はお釈迦様を本堂に据え、安置する。母親と娘がお釈迦様を拝みに来る。母親がお参りをすると、お釈迦様はうれしそうに「ガッテン、ガッテン」と動く。娘がお参りすると、今度は後ろを向いてしまう。坊主と寺侍は思案のすえ母親に向きを変えてもらうように頼むが、お釈迦様と母親は・・・。

役どころ

釈迦　坊主　寺侍　母親　娘

嵯峨狂言の主要な古面

狂言面系　精霊面　「伯蔵主」
かつてあった演目『釣狐』に使われていたとされるが、現在は使用される演目はない。嵯峨大念佛狂言の古面では最古とされる「享禄二年」の銘を持つ。

能面系　女面　「深井」
嵯峨大念佛狂言の行われる清涼寺を舞台とする能『百萬』に使われる。

能面系　鬼神面　「三光飛出」
蜘蛛などの鬼の役柄に使用される。

独自面　「大念佛面」
源頼光などの役柄に使用される。

能面系　鬼神面　「大癋見」
渡辺綱などの役柄に使用される。

能面系　鬼神面　「天神」
平井保昌などの役柄に使用される。

独自面　「大念佛面」
旦那などの役柄に使用される。

独自面　「大念佛面」
供などの役柄に使用される。

京の大念仏狂言を彩る面

無言劇を特徴とする嵯峨大念佛狂言（指定名は嵯峨大念仏狂言）にとって最も重要なものが仮面である。仮面劇としての大念仏狂言は、芸術化した能楽とは別の道を歩んできたが、仮面は単なる仮装道具としてではなく、その登場人物の役柄やセリフの代用となる表現手段であり、無言劇にとっては不可欠の転換装置である。

今回はその面に焦点をあて、本年の6月から古面の本格的な調査に取り組んできた。その成果を生かすため、シンポジウムや講演会、面の展示や市内巡回写真パネル展を企画した。嵯峨大念佛狂言保存会は中断という負の歴史の後に結成され、この芸能を引き継ぎ、今年で50年の節目となる。平成30年（2018）狂言堂大修理以降は狂言堂を拠点に毎年、課題を設け事業に取り組んできた。今年度は室町時代以降に制作されたとみられる48点の古面を対象に、専門家や面打の方々からの見解や意見を交え、これまで推定されてきた作者や制作年代についても再検討し古面の実像を探る。

国指定 重要無形民俗文化財　嵯峨大念佛狂言

五台山清涼寺（嵯峨釈迦堂）の境内にある狂言堂で行われる大念仏狂言である。壬生寺、引接寺（千本ゑんま堂）と並び、京都の三大大念仏狂言として知られる。弘安2年（1279）円覚上人によって始められた清涼寺の大念仏会に由来するとされている。保存会が所蔵する古面に享禄2年（1329）の墨書があることから、室町時代には能面を使用した狂言が行われていたと思われる。昭和38年（1963）に後継者不足などで中断されるが昭和50年（1975）10月に嵯峨大念佛狂言保存会が結成され復活し、昭和61年（1986）に国の重要無形民俗文化財に指定された。壬生狂言同様、無言の仮面劇であり狂言方のほか囃方と後見が舞台に座る。演目には能楽系の「カタモン」と狂言仕立の「ヤワラカモン」に大きく分かれる。公演は毎年3月15日清涼寺お松明式での奉納公演、4月初旬の土日の3日間からなる春季公演、円覚上人命日の10月26日に近い日曜日に行われる秋季公演を中心に、狂言堂で公開している。

定期公演の様子

京都府立京都学・歴彩館
Kyoto Institute, Library and Archives

〒606-0823　京都市左京区下鴨半木町1-29

アクセス

京都市営地下鉄
烏丸線「北山」駅（1・3番出口）より南へ徒歩4分

京都市営バス
・4・北8号系統　「北山駅前」より南へ徒歩4分
・1・204・205・206・北8号系統　「府立大学前」より北へ徒歩6分